

和歌山大学協働教育センター クリエプロジェクト  
＜2018年度ミッション成果報告書＞

プロジェクト名：クリエ映像制作プロジェクト

ミッション名：メッセージを届けるCMの作成

ミッションメンバー：観光学部2年本村優衣 観光学部2年奥山祥子 観光学部1年西川聖哲 経済学部1年西川惟 システム工学部1年宮本真希 システム工学部1年渡邊裕子

キーワード：CM メッセージ カメラ 撮影のための知識 様々な視点

## 1. 背景と目的

CMに対し、約30秒の短い時間で視聴者にあるメッセージを伝えることができるものや、つい目が留まり、その後印象に残るものというイメージをもっていた。そこで見る人の心に響くようなCMをつくりたいと考えたため、この活動に参加した。また実際にカメラや照明、音声などを使って、撮影を行いたいと考えたため、この課題を通して、カメラの操作方法や映像編集の技術を身につけることも目標にしている。

## 2. 活動内容

まず撮影を行うにあたって、撮影のための知識やカメラの操作方法について学んだ。以下はその内容について述べる。

- ・画面上に2人の人物が並んでいるとき、その2人を結ぶ見えない線であるイマジナリーラインを越えてはいけないなどのルール。
- ・望遠（カメラのレンズの中央からレンズが像を結ぶまでの距離が長い）または広角（カメラのレンズの中央からレンズが像を結ぶまでの距離が短い）でとるかによる画像の効果の違い。
- ・カメラのポジション（位置）とアングル（角度）によって被写体の効果の違い。
- ・三脚の使い方、ピントの調節、ホワイトバランス（撮影環境での光の色の影響を補正して、白を白く写すための機能）の設定などカメラについての操作方法。
- ・脚本、絵コンテ（脚本をもとにして各カットの画面構成を絵で表し、脚本の流れを再現したもの）のかき方。

その後班のメンバーとの活動に移った。以下は具体的な活動内容について述べる。

抽象的なテーマから具体的な案にし、起承転結に基づいて具体化し、CMの中でどのようにしてメッセージを伝えていくか様々な意見を出しあい班のメンバーと話し合った。次に班のメンバーと脚本をつくり、絵コンテを描いた。絵コンテの完成後、自分たちで話し合い、撮影場所についてどこがいいかについて話し合った。

## 3. 活動の成果や学んだこと

まず撮影のための知識として、学んだことについて述べる。

- ・画面上に2人の人物が並んでいるときその2人を結ぶ見えない線であるイマジナリーラインは原則越えてはいけないが、演出方法の一つとして越える場合がある。
  - ・望遠でとると遠くのを大きく見せることや、被写体の狭い範囲に焦点を合わせられるため、背景をぼかすことができる。一方、広角でとると広い範囲に焦点が合うため、背景を広くはっきり撮影したり、遠近感のわかる写真を撮影することができる。
  - ・脚本をかく際に、最初に場所と時間帯をかくことや、絵コンテをかく際、最初に全体の様子を見せなければ、見る側にはわかりにくいことがわかった。場面がワンパターンになると、見る側が飽きてしまうので、なるべく同じようなシーンは避ける。
  - ・絵コンテの書き方として、顔は○と+で表現し、○は顔の位置と大きさを表現している。+は、顔の向きを表現している。+の交差する点が、「鼻」を指している。人物は誰かわかるように、人物の横には名前を書く。動きがある場合は、動いていく方向を矢印で表現する。
- 次にカメラの操作方法について学んだことについて述べる。

・実際にカメラを操作することで、ホワイトバランスの設定やピントの調整、音声やカメラの位置を安定させる三脚の使い方について学んだ。

#### 4. 今後の展開

今後の展開としては、当初に掲げた映像編集の技術を身につける目標に関しては、まだ達成過程であるため、これからの活動において、実際に活用することで向上させていきたい。この活動を通して、自分たちのスケジュール通りに事が進まないことがあったため、撮影場所や演者の確保をよりスムーズに行うべきだと感じた。また撮影にとりかかる前に、影の位置や自然光など想定外のことも視野に入れながらロケーション・ハンティング（撮影場所を探すこと）をすることや、撮影を円滑に進めるために前もってスケジュールをしっかりと組み、演者や撮影に携わる人と打ち合わせできるように気をつけていきたい。これらの課題を解決し、完成した作品をコンテストに応募し、入賞することを目指している。

#### 5. まとめ

この活動を通してカメラの操作方法だけでなく、撮影に関する知識も学ぶことができた。抽象的なテーマを具体的な案にし、起承転結に基づいて具体化し、CMの中でどのようにして伝えていくかを決定することに時間がかかってしまった。しかし決められた期限内に、絵コンテまで仕上げることができた。アイデアの提案が多かったため、そのことをまとめる能力が必要だと感じた。この活動を通して、CM制作には多くの過程があって、完成するものだと感じた。一つのCMをつくるにはアイデアを自分たちで一から考えなければならない点に苦労したが、アイデアがまとまり、脚本や絵コンテが完成したとき、達成感を感じることもできた。脚本や絵コンテの作成の際、班のメンバーの自分とは異なる意見を聞くことで、様々な視点からの意見を取り入れることができた。特に絵コンテをかく際、一つのシーンをどの角度で、どんなショットでとるかを話し合い、その違いによって、どんな印象をうけるかを考えることができた。様々な視点から物事を考えることが重要だと感じた。班での活動によって、協調性だけでなく、積極性の大切さを学ぶことができた。